

は　じ　め　に

この南方海域研究センター刊行の Occasional Paper No. 11（南方海域調査報告 第11号）は、昭和61年6月16日に鹿児島大学本部棟4階会議室で、鹿児島大学南方海域研究センター・日本鉱山地質学会金銀鉱床と地熱系研究委員会が共催したシンポジウム「古地熱系と活地熱系」の記録です。

金銀を産するところと地熱エネルギーを利用するところは、日本から南方海域にわたり、数多く互いに近接して分布していきまして、鹿児島はその代表的地域の一つです。これまでは、金銀鉱床と地熱系は別々の対象として研究されることが多いようです。しかし、これらのできかたは関連していますので、共通点と相異点を総合的に研究しようとするのが上記の委員会の目的ですし、このシンポジウムの目標でもあります。古地熱系と活地熱系という対応する表現は、そのために生まれたものといつてよろしいでしょう。

広い分野から、約90名という予想以上の方がシンポジウムに参加していただきまして、鹿児島大学長のごあいさつをいただき、座長、話題提供者、討論発言者のご協力により、盛會に終わりましたことは、企画の一人として、感謝しています。また、南方海域研究センターとしては初めてですが、シンポジウムに続いて、このテーマのフィールドとして適切な菱刈鉱床を見学させていただきました。これには25名が参加し、16日の湯之尾温泉の懇親會、17日の坑内見学会と討論會、いずれも有意義な成果を得ましたし、金鉱石のお土産もできました。

このシンポジウムと見学会が沖縄トラフの熱水マウンドの発見に役立ったということ（p. 22）は望外の喜びです。そのほかにも、この記録がこの方面に関心のある方々にとって話題の一つになることがあれば、まことに幸いです。

このシンポジウムの企画と運営に当たられました鹿児島大学南方海域研究センターの井上晃男センター長ほか関係の方々と日本鉱山地質学会金銀鉱床と地熱系研究委員会委員、および、見学会のお世話をしてくださった住友金属鉱山株式会社関係の方々に、心から御礼申し上げます。

昭和62年1月10日

編者　鹿児島大学教養部　浦島幸世